右から

砂田さん・末永さん 渋谷さん・片山さ

できました。それと同時

和のために自分には

末永涼子・

島原翔南)

では「HRを活用した進路

その後の校種別の分科会

先生方と交流でき、また各

夕食交流会では、

各県の

頃から広島は兵站(軍の 戦よりも前の日清

(都市)としての機

かも、日本唯一 いうのは驚きでした。

敵国からすると

ブロックごとの紹介や催し物

えさせることはとても大事 うありたいか(人物像)を考 りたいか(職業)ではなく、ど

ジが強いですが、第二次大 じく"原爆"というイメー

三戦争の

けて軍を派遣していた

りました。広島は長崎と同 の陸軍墓地や宇品港を巡 を学ぶ」と題して、比治山 広島の歴史~軍 では「教科書では学べない

だと思いました。

の片山さん(平戸)の他、

した。

今回、

田さん(長工全日)・渋

員が参加しました。長崎 から210人の青年教職 広島市で開催され、全国 会) は、2月2・3日に

全

国青年教職員交流集

そして、

今年度の「TANE!」

人が参加しました。 さん(島原翔南)の合計4 谷さん(大村全日)・末永

子を紹介します。

1 日目の全体会では

全国青年教職員交流集会「TANE!」 発 行 〒850-0013 長崎中川2丁目2番5号

長崎県高等担会館 長崎県高等学校教職員組合 ☎ (095)-827-5882

(095)-826-2976

7

FAX

iņ 広島

長崎高教組から4人が参加

職員の働き方、核兵器禁 報告・感想で、 きました。2日目は、 E!」に参加した2人の イールドワークがありま つの講座(組合活動、 別・テーマ別の分科会、 条約)と3コースのフ 夕食交流会と続 初めて「T 集会の様 A N 3 らなと思ったので、長崎の お話しできる機会があった られました。林田さんと、 も初めてで、原爆ドー 加しました。広島に来たの 研 何ができるのかと考えさせ ぐるフィー 2 日 目 修にも呼んでほし

できました。 見たのも初めてでした。時 惨さを改めて感じることが です。原爆の恐ろしさや悲 とができなかったのが残念 った人の話を充分に聞くこ 間が短く案内をしてくださ 先生方から「長崎の青年は全教青年部や他の県の

より

・嬉しかったの

長崎の原爆についても

学び直したい

てからずっと長崎に住んでい ますが、まだまだ知らない原 行かなければならないと強 く思うことができました。 の恐ろしさや平和の尊さに からこそ責任をもって原爆 もあると感じ、長崎出身だ 爆のことや、忘れていること いる子供たちに語り継いで ついて他県の人や目の前に 私は、長崎出身で生まれ 1崎の原爆についても学び とうございました。」などの 青年対談企画などを通し 言葉をもらい、いろいろな や中四九の先生方からは の子どもたちにどのように 世の人たち、つまり目の前 て、"平和"の大切さを後 された吉岡さんの証言や したことでした。 大事だなぁと改めて実感 場所での人との"繋がり"が 12月の学習交流会ありが

全体会では実際に被爆

かかわらず、10年後の自分た。進学指導・就職指導に

を想像させること、何にな

うのをグループで討議する

若干圧倒されました(笑)。 良かったですが、若い力に 交流できたことが非常に などで賑やかに、

2日目のフィールドワーク

·都『廣島』

などして、各先生方の取り

組みを聞くことができまし

路意識の向上を図るかとい

指導の取り組み」に参加し、

HRを通して生徒たちの

進

広島の被爆者の方の話は、

岡さんの話を聞きました。

1月目は、

被爆者の吉

ヒバクシャ国際署名キャンペ が多く勉強になりました。 初めて聞き、知らないこと 員による対談企画があり

した。その後は、校種

んと「TANE!」実行委

て、とても刺激を受けまし

熱くて若い先生が来てい ました。全国から多くの

を務める林田光弘さ

名」のキャンペーンリー

吉 広

岡幸雄さんの被爆証言 島県被団協副理事長の

「ヒバクシャ国際署

初めてTANEに参加し

部"復活"おめでとう!」

張ります。 来年も参加できるように頑 直したいです。 とてもいい研修でした。

> 考えさせられました。 伝えていくかということを

身で広島県で平和のため ました。同い年で、長崎出 も面白く聞き入ってしまい ーン林田さんの話は、とて

に活動されていて、自分も

張りたいと思うことが

は、平和公園をめ ルドワークに参 編集責任者 馬場 隆 購読料一部10円 組合員は組合費に含む メールアドレス naga-kks@fsinet. ームを or. ip

繋がり" が大事と 改めて実感

夕食交流会での集合写真 長崎のメンバー

- は大胆にも最前列の中央

3月3日は「子どもと教育を考えるつどい」へ 長崎市民会館6階 12:30受付開始

「全国学力テスト・自治体独自の学力テスト」のもとで、教育が歪められ、 教職員が苦しめられています。全国・自治体独自の学力テストのねらいや、授業の理解 「るための「テスト」との根本的な違い、特別なニーズを持つ子どもや 学びが難しい環境にある貧困家庭の子どもにとっての「学力テスト」 度を教師が把握するための「テスト」との根本的な違い、 とは、そして、「高大接続改革」における高校教育改革の要である「高校生のための学び の基礎診断」の問題などを、参加者で考え問題点を共有し、すべ達を保障する教育のあり方を描き出したいと思います。その際、 すべての子どもの成長と発 今までの高教組や全教 の各教研で討議された次のポイントを軸に議論を深めていきたいと考えています。

ポイントの① 子どもたちから見た学校

「しなければならないことができるようになる人間」を求める学校。 「すべき」ということと「したい」ということ、どちらが大切なの

「したい」ということ、どちらが大切なのか」。

「したくないと思っていてもしなくてはならないことを達成できる人間が実は一番(学 校や教師に)好かれ、そして達成できた子が一番学校で求められる。学校はそういう 精神性を養う場ではないのか」。

「(学校や教師が)努力しろというのは、努力の先にある結果を求めている」。

「自発的な意志で、志向的に努力することではなくて、前に歩いている人と同じ道を行 けば安心だというとても隷属的な考えにもとづいているのが学校」。

スタンダード化、マニュアル化された(つつある)教育 スタンダードが内包する課題

教師の側が思考停止に陥り、 「このし < みやル ルはなぜあるのか、 なぜ必要なのか」 を思考できなくなる危険が指摘できる。 授業スタンダードにいえば、 なぜそうしたル ルが必要なのか、学力テストの成果指標は本当に必要なのか、 ぜなのか、といったこと。スタンダードがマニュアル化して、 必要だとすればそれはな 学力テス トの成績向上が もなぜそれらが必要なのかを

至上命題になれば、それらは前提となって、教師はそもそ 考えなくなってしまう。本来は手段であるはずの授業スタ を守る・守らせることが目的化してしまう危険性がある。 自ら考える力や主体的な学びが要求されている近年 、教師にも考える力や姿勢が必要であると思う。し ちに対しては、 では、 かし、授業スタンダードの運用 える力が著しく弱くなってしま 間違ってしまうと、ことが危惧される。 ードの運用を間違ってしま 教師自身の考 う 授業だけでは なく、生活指導も含めて、教師がきちんとした説明ができなければ、 保護者や子どもからの信頼を得ることが難しくなるのではないか。

真っ先に叩いておきたい

楽しく

あと痛感しました。陸 られた方々が埋葬され れが後の"原爆"へとつな場所だった思います。そ 祖国に帰ること亡くな 墓が建てられており、 墓地には各県ごとにお がることになったのだな

ていました。宇品の港は 中国大陸やアジアに向 大変小さく、ここから があれば参加したいと日間でした。また機会 参加でしたが、非常に たのかがわかりました。 無謀で無茶な戦争をし 学ぶものが多くありま た。いかに当時の日本が 砂田 した。非常に充実した? かったことも衝撃でし TANEには初めての 歩• 長工全日

組合は

であい

ふれあい

たかめあい

ħ

が強

育を営利の

対象とする流

台

第

回定期大会が2

全

|教(全日

本教

開 月9

「催され、長崎高教組か?9・10日、東京都内で

教第36 組織建設の一 回定期大会 「新たな3カ年計画

を決

定

新

員 を

選

出

「《ソサエティ5・0》 うけ、学校からゆとりと笑顔を奪ってい矢継ぎ早の改革を子どもたちや教職員に いて、 教育を営利の対象とする流れが強ニティ5・0》という社会を一方的

押しつけ、 る」(中村委員長の挨拶より) められている。教職員の専門性を著しく軽視 描

職

職 員 でなけ \mathcal{O} 言を聞 高教 2 目 ・化」され、 いて、 祖の2人を含める国の討論では、国

授業の大切さをあらため と子どもが共に考えあう において、「正解」のな 的で機械的な「上意下達」 大切にされる学校と社会 て感じました。子ども くみを発言しました。 問いや「なぜ」を教師 のちと人権が何よりも 職場が広がっている中 の代議員が各地のとり (校則) が「スタンダ を考えさせない画一 ればいけない 教え方や規 なぜそう の 0) 立

周年を迎える年に初の を果たしていきたい」 輩の思いを受け継ぎ、 委員長になるとして、 しました。 新しく中央執行 لح 役

)書部専門委員会県教委交渉 19~2021年度)等を 支えるために、 で長 した。 方針や組織建設のた会の実現を」などの 憲法をいかした教育・を」「9条改憲を許さず やして未来を拓こう」「教 が貫かれた大会となり を合わせようという思 「新たな3カ年計画」(20 で長時間過密労働の職員定数の抜本的な (現書記長)は、全教30に選出され小畑雅子さん 次定し、 して閉会しました。 りたい、 大会は「仲 新役員体 織建設のため その みんなで力 - 委員長 改善等 制 の 間 願 を確 解消 を増 渾 女性 先 の動 社 割



交渉で県教委に示した 生徒作成の図書ポップ

県教委交渉を行いました。 校図書館の充実を求める高教組は2月12日、学

校での

困

難な状況を参 専任司書の

配加

長

崎

県公務共闘

定年延長問題学習会

者が語り、

置拡大を求めました。

定年延長問題の情勢等について学ぶ

ダー

や「ゼロトレ つけ、「スタ

業を押し

も学習指導要領通りの

ンス」

で子どもたちや

例も含めて紹介するととの状況を、具体的な実践あ任司書の配置によって配書館活動を任司書の配置によって配置されている学校から、 場の組合員3人(西陵・ ました。 と学校図書館に関わる現交渉には、本部役員2人 口加・竹下さん) が参加し 橋さん、島商・ 交渉では、 書の配置によって 専 坂下さん、 住 書が 高

は12校のままになる見込来年度については、配置い」と回答しましたが、 学校に優先して配置した「司書担当者が未配置の 用職員制度導入に合わせ め高教組は、 みを述べました。そのた 善 を求 会計年度任 ま

ない

講

これに対して県教委は 県公務共 務員の定年延長問題に長崎市の建設会館で、 人(高教組 いて学習会を開催 しました。 一公で組織している長崎高教組と自治労連・県 共闘は、 は 13人) が参 1 月 27 日、

公 0 内外の情勢や、退職金・の定年延長をめぐる国会 る秋山正臣さんに東京か組連絡会の事務局長であ ること等について、 年金との関係で考えら ら来ていただき、公務員 ら話 詳しい内容にも触れな ても まし

Ļ

みより遅れているた法案の国会提出が見込 中にHP等で紹介する が、学習会の具体的な あるとのことでした 時期も遅れる可能性が 玉 内容については、近 6 きあがっているが、 定です したい与党の思惑で[会での審議事項を減 実際の定年延長の 延 長の 法 宝案はで 今



「高校教育『改革』の危険なねらいと私たちの対抗軸」(児美川講演 第3回)

高大接続改革

- ・・「副次的な帰結」「意図せざる結果」を考慮することなく政策決定・・・
- (1) 高大接続改革の問題性

次長が参加しました。

-村尚史中央執行委員

司

鍛治委員長と寺田

は、 中

挨拶の中で、政府

現場での実践も示しながら

専任司書の配置拡大等を求める

の 必 Þ

教育に切り替えよう 要な人材を育てるため 財界が描く未来社会に

子どもたちの実態よ

「基本的な構図」は入試をいじることで、高校教育(大学教育も)の中身を変えようとするもので、ねらいそ のものが本末転倒です。**競争圧力を活用**しようとする政策である以上、「教育制度の過度に競争的な性格」(国 連「子どもの権利委員会」による日本政府への勧告)を改めるような方向での施策にはなりえていません。 もそもが「床屋談義」?「一点刻み」はだめ?「人物評価」が大事?等、同時に60万人が受験する共通テストに 何ができるかという点についての冷静な判断や制度を変えることの「副次的な帰結」「意図せざる結果」を考 慮することなく政策決定へとなりました。「**はじめに工程表ありき」**で無理と無茶を押し通しています。

- (2) 高大接続改革の問題性(2)
- 1)「高校生のための学びの基礎診断」
 - ①実施・運営は、**民間教育業者に丸投げ**という「暴挙」。
 - ・複数の事業者は、営利活動として自前の「診断テスト」等を提供しつつ、認定を受けて「学びの基 礎診断」も実施するという、究極のマッチポンプ。
 - 「公的」な「基礎診断」に参入。ここの「公共性」が議論されていない。
 - ②国は認定を行うだけで、テストの質保証ができるのか。そもそも、何を高校教育の「基礎」 それをどう測り、評価するのかは、学校現場も含めての大議論が必要だったはず。
 - 「当面は」AO入試・推薦入試(後に、総合型選抜・学校推薦型選抜)、高卒の就職試験には使わない というタテマエ。ただし、**それでは「一体型改革」のツールにはならない**ので、いず れは「解禁」されるのは必至?
- 2)「大学入学共通テスト」
- ①当初の構想からの大幅なトーンダウン。年に複数回の試験実施、合教科型の出題、大幅 な記述式問題。
- ②英語4技能での外部試験導入という「無茶」。
- ③記述式問題の採点基準への疑心、「プレテスト」からの不安、2024年以降(高校の新学習 指導要領の完成年度後)への憂鬱。
- ④そもそも「思考力・判断力・表現力」は、同時に60万人が受験する共通テストでどこまで測れるのか。 新学習指導要領のね ⑤共通テストが、**教科の学びの本来の豊かさを損ね** らいを浸透させる強力なツール
- ⑥容易に想像される塾・予備校のテスト対策のバージョンアップ。
- 各大学の個別入試では「主体的・多様性・協働性」を評価することが求められていますが、調査書の扱 い(合否判定に使用するのかどうか)も含めて、未定のことがあまりにも多すぎます。高校はす トフォリオの方向に動かさせられている現状があります。(しかし、 合否判定にe-ポートフォリオを使 うことは無理なことです。法政大学のように10万人が受験する とは不可能。調査書も含めて、どう使われるのかは現段階では不明。)一般入試(後に、一般選抜)が変わ るのは、国立大の二次試験を含めて、入学定員の枠が小さいところにとどまり、大規模私大などでは、 AO・推薦入試(総合型選抜、学校推薦型選抜)の枠が増加するくらいに落ち着くのではないかと思いま

文科省が「競争的資金」で各大学の入試改革を促進しようとすることは、あまりにも容易に 想像できるので、それしだいという側面もあります。(※大学も産業界と連携している。)

<高大接続改革とは何なのか>

つまりは「主体的なエリート層の選抜」に収斂し、そのための「入試改革」といえます。